



▲インフォメーションを見入る生徒(花園中学校)



▲木材を使った温かい雰囲気の校舎(榛沢小学校)

小柳教育長「深谷の教育を語る」

——深谷の子どもたちが、どのようにつながっていくのか。

●小柳教育長 子どもたちは、夢を叶えることをもち、まっすぐに思いやりのある人になってほしいです。そして、変化の激しい社会を生きていくために願っています。

人は、「夢」を抱き、これを「こころざし」として掲げ、自分の人生を歩んでいきます。その道の中には、山あり谷ありの連続ですが、自分を励まし、友を思いやり、社会

の中で助け合いながら、「夢」の実現に一歩一歩近づいていくのです。市は、こうした子どもたちの自立と成長を手助けしていきます。

——渋沢栄一翁の心を受け継ぐ教育をどう進めたいですか。

●小柳教育長 昨年度、学校教育振興懇談会を立ち上げました。PTAなどと協議を重ね、渋沢栄一翁の「立志の精神」・「忠恕の心」を受け継ぐ「青澁学びの郷(さと)」事業の

推進など、教育の content と環境の充実を図っています。

例えば、大学生を活用した中学生補習学習「ステップアップレッスン」で基礎学力を身に付けさせ、「こころざし」深谷科学塾・国際塾で伸びる子を伸ばす取り組みを行っています。思いやりの心をはぐくむために、「ありがとうの手紙」の募集、地域のかたを指導者とする「まっすぐに学ぶ」の派遣、栄一翁の生き方に学ぶ「渋沢栄一こころざし読本」の刊行などにも取り組んでいます。

——環境面から見た小・中学校の特色を教えてください。

●小柳教育長 深谷市は、これまでの取り組みにより、他市に例を見ないほど、施設・設備が充実しています。各教室や玄関などには、コンピュータやテレビなどの情報機器が整備されています。これにより、「分かる授業」に磨きがかかり、ホームページや連絡メールなどでの情報も素早く伝わるようになりました。そして、イメージを一新する美しいトイレを整備

わ たしたちは、他者や自然、社会とのかわり、つながりを持ちながら生活しています。その中で、「教育」は自らの生き方について考え、実践していく力を養うために重要な役割を果たしています。

少子高齢化、高度情報化、国際化など、変化の激しい現代において、自立して生きていくためには、学力・豊かな心・健やかな体を基盤とした「生きる力」を身に付けることが最も大切です。子どもたちの自立と成長を保障する「生きる力」をもった子どもたちを育てるため、市は、渋沢栄一翁の「立志の精神」・「忠恕の心」を受け継ぐ教育に取り組んでいるほか、その教育を支える環境づくりを徹底して行っています。

今月の特集では、深谷の教育を率いる小柳光春教育長のインタビューや、渋沢栄一翁の心を受け継ぐ教育、教育環境の整備について取り上げます。

【言葉の壁】

立志は「夢をもち、こころざし高く生ずること」。忠恕は「まっすぐに、思いやり」を意味します。

し、子どもたちのイメージに対する考え方を変えつつあります。さらに、学校の耐震化を進めることも、木材を使って教室や廊下を整備し、安全でしかもぬくもりのある環境づくりが進みつつあります。教育は、 content と環境が相まってまっすぐに進みます。今後とも、小島市長とよく話し合いつつ、深谷市の教育を充実させていきます。

——最後に、保護者のかたへ一言お願いします。

●小柳教育長 昔から、子どもは、家庭でしつけられ、学校で学んで地域で育つ、といわれます。子どもを取り巻く学校・家庭・地域が、これまで以上にその役割をきちんと果たすことも、緊密な連携を図ることが求められていると考えています。そこで、学校応援団などで家庭や地域と一体となり、地域に根を張った活動を推進するなど、保護者の皆さんと手を携えて、子どもたちの自分探しの旅を手助けしていきたい、と思っています。



保護者の皆さんと手を携えて、子どもたちの自分探しの旅を手助けしていきたい
—— 深谷市教育長 小柳 光春

高まる教育力 深谷の

「内容」「環境」双方からの充実

深谷の教育 今を知る

洪 沢栄一翁の「立志の精神」・「忠恕の心」を受け継ぐ教育を推進しています。「夢とこころざしをもち、まごころと思いやりのある子」を育成するため、教育内容・環境の両面から、さまざまな施策を実施しています。重点14項目については、下の通りです。ここでは、特に注目すべき事業について紹介します。

平成24年度末までに、現在使用している校舎・体育館などを100%耐震化します。
【耐震化率の状況（平成23年4月1日現在）】
 ・深谷市 94・2%
 ・埼玉県 77・4%
 ・全国平均 80・3%

8月末までに、小・中学校にエアコンを設置

夏の暑さ対策として、小・中学校の全普通教室436室にエアコンを設置します。中学校については6月末までに、小学校については予定を前倒しして8月末までに、整備を予定しています。

平成24年度末までに、学校の耐震化率100%へ

子どもたちの安全確保を最優先に考え、小・中学校の耐震化を進

県下全市で1番 ICTの整備率

全国に先駆けて、小・中学校のICT（情報通信技術）環境の整備に取り組んでいます。
 平成23年3月1日現在の学習用コンピュータ整備率は、児童・生徒数4・3人に1台の割合です。県下全市で1番の整備率となりました。

学校内などの場所からも高速インターネットへのアクセスが可能で、現在、書画カメラや電子黒板などのICT機器を活用した授業が行われています。

深谷の教育 明日を知る

1ここでは、平成24年度以降、深谷の教育の道標となる方向性について紹介します。
2教師が子ども向き合う環境づくり

新しい教育課程で過密となる時間割を緩和するとともに、子どもたちの冬季下校時の安心・安全を確保するため、各学校の実態に応じて、冬季の6時間目を減らし、代わりに休業日（夏季・土曜日・開校記念日）に授業を行います。
 ※夏季休業日には、エアコン導入後の教室を活用します。

3深谷市独自の学力アップ作戦 子どもが向上心を持ち、自ら進んで学習に取り組めるよう、算数・数学や英語の学力認定を行います。
4小学校の教科担当制への支援 中1ギャップ解消に向けて、小学校高学年を対象に、専門教科担当教師による教科担当制への支援を行います。

5生徒指導体制への支援 教師と支援員が共同して、個々の子どもへの学校生活全般にわたる親身な支援を行います。



▲希望者が参加する補習学習（豊里中学校）

重点14項目

- (1) 8月末までに、小・中学校にエアコンを設置
- (2) 平成24年度末までに、学校の耐震化率100%へ
- (3) きれいな校舎で学習意欲アップ 大規模改修工事を実施
- (4) 小・中学校の給食をすべて自校方式へ移行
- (5) 県下全市で1番 ICT（情報通信技術）の整備率
- (6) 研究所を核にした教師の指導力の向上で、学力アップ
- (7) 小学校3年生からの外国語指導手の活用
- (8) 中学校3年生への補習学習

県内初、中学校に学校総合支援員を配置

校長経験者を中心とした経験豊富な退職教員を採用し、中1ギャップ・虐待などに係る家庭訪問や、保護者への対応をしています。学校が抱えるさまざまな課題の解決に努めているほか、子どもたちの下校時の安全に関する支援や、中学校3年生を対象とした補習学習の支援も行っています。

【中1ギャップ】

小学校から中学校に進学したときに、学習内容や生活リズムの変化になじむことができず、不登校になったり、いじめが増加したりする現象をいいます。

保護者・児童の声 「深谷の教育について伺いました」



柏坂明子さん（保護者）

子どもが深谷小学校でお世話になっていますが、深谷の教育に安心していています。校長先生も子どもたちに目を配ってくださいますし、子どもたちを温かく受け入れてくださっています。学校・家庭・地域の連携があり、みんなで子どもたちを育てている感じがします。



石川智貴さん（深谷小学校6年）

小学校は楽しく、担任の小林先生は、ぼくたちの気持ちを分かってくれる優しい先生です。4月から、中学生になりますが、特に不安なことはありません。中学校では、部活と勉強を両立したいです。洪沢栄一翁のように、まごころと思いやりを持ち、社会に役立てる人になりたいです。



▲まごころ先生から栄一翁を学ぶ（藤沢小学校）

(4)「洪沢栄一翁の心」を伝える授業「まごころ先生派遣」を実施

(13) 洪沢栄一翁の心を伝える授業「まごころ先生派遣」を実施

(14)「洪沢栄一翁の心」を伝える授業「まごころ先生派遣」を実施

深谷市教育委員会